

日野祭

「日野祭」それは、古き儀式と慣例を今なお引き継いだ800年以上の伝統を持つ。毎年5月2日に宵宮、3日に本祭が行われ、神子・神調社を先導として、神輿、2日間にわたり、日野のまちで繰りひろげられる絢爛豪華な絵巻物語を、心ゆく

5月2日 宵祭(西之宮祭)

8:00	神輿・曳山飾付け【綿向神社・各町内】
14:00	西之宮町花警固のお迎え【綿向神社】
14:30	神輿渡御出発 //
16:00	西之宮へ宮入・祭典【西之宮神社】
19:00	神輿還御【綿向神社】
19:00~	宵宮【各町内】

5月3日 本祭(馬見岡綿向神社~ひばり野)

3:00	起こし太鼓【上野田・字内】
4:30	神子着付け【上野田・神子の家】
6:30	神子盃の儀【五社神社】
7:00	神子・神調社出発 //
7:30	神子の御幣奉納の儀【ひばり野】
8:30	神子・神調社宮入【綿向神社】
	各字神幣・神輿駕丁宮入 //
	曳山出発(登り山)【各町内】
9:30	
~11:00	曳山宮入【綿向神社】
10:00	本祭祭典齋行【綿向神社本殿前】
11:30	渡御出発【綿向神社】
12:30	神子・神調社お旅所入【ひばり野】
	馬諫めの儀 //
	渡御行列お旅所入 //
13:30	曳山一部引き取り【綿向神社】
14:30	お旅所祭典齋行【ひばり野】
15:00	還御盃の儀 //
	還御出発 //
16:00	神子・神調社還御宮入【綿向神社】
	馬諫めの儀 //
	渡御行列還御宮入 //
17:30	七三の別れ //
	神幣引き取り //
18:00	神子・神調社引き取り //
	神子の御幣を納める儀
	【綿向神社参道笠懸社】
	曳山引き取り(下り山)【綿向神社】
18:30	神子・神調社帰参【五社神社】
19:30	曳山各町内へ帰参

※時間については若干前後する可能性があります

宵山

(19:00~)



提灯に明かりを灯し、夜遅くまで祭囃子が奏でられ、祭気分を盛り上げます。特に大窪の「札の辻」では毎年数基の曳山が集まり賑やかです。



神子・神調社出発(7:00すぎ)~曳山宮入(11:00)



日野祭の朝は早く、午前3時の起こし太鼓から始まります。芝田楽が午前8時半ごろに綿向神社へ宮入し、続いて神幣や神輿、曳山も連なって次々に宮入ります。昼ごろまでには十数基の曳山が境内に勢ぞろいします。

「芝田楽」とは、3人の神子と称する稚児を警護する大字上野田で組織する神調社という一団の呼称です。裃姿の100人ほどの神調社が日野祭の進行を取り仕切っています。

締め太鼓を轟かせ、「芝田楽」が大通りを威儀を正して進む姿は見応えがあります。

つ湖東地方最大の祭である馬見岡綿向神社の春の例大祭です。

3基を中心とする渡御の祭礼です。更に、祭礼を飾る十数基の曳山とその囃子は、見逃すことのできないすばらしいものです。

くまでお楽しみ下さい。

渡御出発 -本祭祭典齋行-

(本祭 10:00~)



曳山が宮入りしている間も、綿向神社では本祭祭典が齋行されています。

その後、拝殿の神輿前では宮司と三人の神子との間で「渡御の盃」が交わされ、渡御が出発します。



出発の太鼓の音とともに曳山が一斉に祭囃子を奏で、神子を先頭に芝田楽や神輿などが行列となり、御旅所であるひばり野へ出発します。

このとき、曳山からの祭囃子や神輿の男衆の威勢の良い掛け声が響き、境内は熱気に包まれ祭は最高潮を迎えます。



渡御の一行が御旅所へ出発した後、午後1時半より境内では曳山の一部が町内に引き取られていきます。

還御出発 -御旅所祭典齋行-

正午過ぎより芝田楽や神輿などの渡御行列が順次、御旅所に到着します。



その後、口之宮神社にて御旅所での祭典が齋行されます。

神子との盃の儀が終わると、還御が出発し綿向神社に再び宮入ります。



七三の別れ

(17:30)



最後に到着した宮司が、神子と境内参道で「七三の別れ」と言われる挨拶を交わします。

神子・神調社引き取り -曳山各町内へ帰参- (本祭 19:30)



夕刻には曳山に明かりが灯され、下り囃子とともに各町内へ戻っていき、絢爛豪華な祭の幕が閉じられます。

